アルファベットの文字指導「書くこと」の研究

―小学英語教科書の分析を通して―

津村　敏雄

要旨

令和２年４月から小学校高学年（小学５年生・小学６年生）で新しく設置された「外国語（英語）」の授業が行われている。この教科は、これまで高学年で行われていた音声指導の「聞くこと」「話すこと」が中心だった「外国語活動」に文字指導の「読むこと」「書くこと」を加えた４技能５領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」）によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目標とするものである。教科外の扱いから教科となったことで「外国語（英語）」では小学校の英語教育で初めてとなる検定教科書が編纂・使用され、授業時間数も倍増している。これまで中学校で扱われてきた学習内容である文字指導「書くこと」についても「外国語（英語）」の教科化に伴って小学校高学年で実践されている。本稿では長年に渡ってアルファベットの文字指導が実践されてきた中学校英語教科書との比較分析を通して新しく作成された小学校英語教科書のアルファベットの文字指導「書くこと」を考察する。

Ⅰ　はじめに

旧小学校学習指導要領（平成 20 年告示）のもと、平成 23 年度から約 10 年間に渡って小学校高学年（小学５年生・小学６年生）では「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う」ことを目標とする「聞くこと」「話すこと」の音声指導を中心とした「外国語活動」が行われてきた。やがて、「外国語活動」の授業実践報告などから、音声を中心とした学習成果が中学校での文字の学びに円滑に接続されていないこと、小学校高学年は知的好奇心も抽象的思考力も高まる段階なので文字や語順などの体系的な学習も必要であること、教科外の扱いで検定教科書がなく授業時間数が年 35 時間と少なく言語学習としての成果が期待できないことなど諸課題への対応が求められた。こうして、令和２年４月から、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の施行に伴って、小学校高学年（小学５年生・小学６年生）では新設教科「外国語（英語）」の授業が行われている。これまで高学年で行われてきた音声指導を中心とした「聞くこと」「話すこと」の２技能におけるコミュニケーション能力の素地を目標とする教科外の「外国語活

動」は小学校中学年（小学 3 年生・小学 4 年生）に移動・新設となり実施されている。教科「外国語（英語）」は、文字指導も加えた 4 技能 5 領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」）の育成を目標とし、授業時間数はこれまでの「外国語活動」の年 35 時間から「外国語（英語）」は年 70 時間となり、教材は「外国語活動」の文部科学省作成教材から「外国語（英語）」では新たに検定教科書が使用されている。これまで長年に渡って中学校 1 年生を対象としてアルファベットの文字指導「書くこと」が行われてきた中学校英語教科書と、新しく小学校 5 年生を対象としてアルファベットの文字指導「書くこと」が行われている小学校英語教科書では、アルファベットの文字指導「書くこと」という点においてどのような違いがあるのかを比較分析する。

Ⅱ　領域「書くこと」の目標

令和 2 年度から施行されている小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の外国語科の目標には、学力の 3 要素である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の観点から、それぞれのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを掲げている（表 1）。

表 1　外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

（出所）『小学校学習指導要領』（平成 29 年告示）

まず、(1) は「知識及び技能」に相当する部分であり、端的に言えば「何を理解しているか、何ができるか」ということである。つまり、外国語の音声や文字、語彙、表現、

文構造、言語の働きなどを日本語との違いに気付くことで知識を深く理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいてその知識をきちんと活用することができる基礎的な技能を身に付けることを目指している。ここで「書くこと」で強調されている点は「慣れ親しむ」ということである。「聞くこと」「話すこと」は小学校中学年（小学3年生・小学4年生）の「外国語活動」で慣れ親しんでいるが、「書くこと」は（「読むこと」と同様に）小学校高学年（小学5年生・小学6年生）の「外国語（英語）」で初めて身に付ける技能である。従って、「聞くこと」「話すこと」と同じ段階の到達度を求めるものではなく、英語嫌いに繋がってしまいかねないような強引で拙速な文字指導は控えるべきである。

次に、(2) は「思考力、判断力、表現力等」に相当する部分であり、端的に言えば「理解していること、できることをどう使うか」ということである。実際にコミュニケーションを行う際には、その目的や場面、状況などを考えて最も適切なものを判断して表現する必要がある。ここで「書くこと」に関して強調されている点は「語順の意識」である。英語の語順を意識することは、日本語との語順の違いなど文構造の気付きに繋がるとともに、区切りやスペースなど英語の文字や単語に対する認識も高まる。語順を意識しながら自分の考えや気持ちなどを文字で書いて表現して伝え合うことの重要性を示している。

そして、(3) は「学びに向かう力、人間性等」に相当する部分であり、端的に言えば「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということである。ここでは「書くこと」に関して特筆している点はないが、異文化への理解や他者に配慮しながら自分の意志や判断に基づいてコミュニケーションを図ろうとする態度の大切さを述べている。

さらに、上記の外国語科の目標を踏まえて、4技能5領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」）ごとに、高等学校卒業時に求められる資質・能力を到達目標とする逆算思考による目標設定方法を用いて、小学校高学年（小学5年生・小学6年生）における児童の発達の段階に応じた領域別目標を明確に設定している。小学校外国語科の「書くこと」の目標は表2のようになっている。

表2　領域「書くこと」の目標

ア　大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
イ　自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

（出所）『小学校学習指導要領』（平成29年告示）

アは、アルファベットの大文字と小文字を活字体できちんと正しく書き分けることができることに加えて、小学校中学年（小学3年生・小学4年生）の「外国語活動」の授業な

どを通して音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について語順を意識しながら語と語の区切りに注意して書き写すことができるようになることを目指している。アルファベットの小文字には様々な大きさや形があるので児童が習得するまでに大文字の 3 倍の時間を要すると言われており、4 線ノートを用いて小文字の大きさや形の違いを児童が楽しみながら習得させる（例えば、文字の高さの違いであれば、建物に喩えて 1 階建て、2 階建て、地下 1 階付きの文字と黒板に示すなどの）工夫も必要であろう。

イは、教科書やプリントの例文を参考にして、語や語句を書き換えて児童が自分で表現したい内容の文にすること、空欄に語群から選んで書いて文を完成させることを示している。例えば、氏名、住所、年齢、誕生日、趣味、好き嫌いなど自分に関する内容に置き換えて文を書くことである[(1)]。このように文字指導においては、何よりも「英語を書きたい」という児童の積極的な気持ちを大切にして柔軟に対応する指導を心掛けるべきである。

Ⅲ　分析

領域「書くこと」の目標のアの冒頭部分の「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」は、これまで中学 1 年生用の英語教科書で扱われてきた。そこで、アルファベットの文字指導に関して、令和 2 年度から使用されている小学 5 年生用の英語教科書と、令和 2 年度まで中学校で使用されてきた中学 1 年生用の英語教科書との比較分析を試みることとする。分析対象とする教科書は、令和 2 年度から使用されている全 7 種類の小学校英語教科書（『Crown Jr. 5』三省堂、『New Horizon Elementary English Course 5』東京書籍、『Junior Sunshine 5』開隆堂、『Junior Total English 1』学校図書、『One World Smiles 5』教育出版、『Here We Go! 5』光村図書、『Blue Sky Elementary 5』新興出版社啓林館と、令和 2 年度まで使用されてきた全 6 種類の中学校英語教科書（『New Crown English Course 1』三省堂、『New Horizon English Course 1』東京書籍、『Sunshine English Course 1』開隆堂、『Total English 1』学校図書、『One World English Course 1』教育出版、『Columbus English Course 1』光村図書）とする。

1. 4 線幅

英語学習の入門期に使用する 4 線が引かれている習字帳（英習罫）は「ペンマンシップ」という名称でも親しまれている。4 線の呼称には複数があるが、一般に、上から第 1 線、第 2 線、第 3 線、第 4 線と呼ばれ、第 3 線はアルファベットを書くときの基礎の線になるので基線という別称もあり太い線や赤色もしくは青色の線にして強調されていることが多い[(2)]。コクヨや日本ノート（旧アピカ）など長年に渡って市販されてきた英習罫ノートは伝統的に 4 線の間隔はすべて等しい幅（等幅）で 1：1：1 としている[(3)]。筆者が教科書出版社に取材して調べたところ、令和 2 年度まで中学 1 年生が使用してきた全 6 種類の中

学校英語教科書で使用されている 4 線の幅の比率を 3 種類が 1：1：1 の等幅、3 種類は小文字を書きやすくするために基線と第 2 線の幅が若干広め（4：5：4 が 2 種類、3：4：3 が 1 種類）であるものの、ほぼ等幅になっている（図 1）。

CR	HR	SS	TO	OW	CO
3	1	4	1	4	1
4	1	5	1	5	1
3	1	4	1	4	1

図 1　中学校英語教科書における 4 線幅の比率（4）
（出典）筆者作成

一方、図 2 に示されているように、令和 2 年度から小学校で使用されている小学校英語教科書（小学 5 年生用）には基線と第 2 線の幅が若干広めでどちらかと言えば等幅に近い教科書と、かなり広めとなっている教科書とに二分される。4 線幅がかなり広めとなっている教科書が作成された要因は、学習指導要領の全面実施に向け移行期間で使用されてきた文部科学省が作成した教材（発行は東京書籍）の『Let's Try!』や『We Can!』で使われている 4 線幅の比率が 5：9：5 と基線と第 2 線の幅がかなり広めであることにある。各教科書出版社では文部科学省作成教材の 4 線幅の比率を参考にしつつも、独自の判断で 4 線幅の比率を設定している。7 種類のうち、基線と第 2 線の幅がかなり広めにしている 2 種類は等幅に文字を書くのが苦手な児童への配慮の観点から作成されている文部科学省の教材の 4 線幅をモデルとしているのに対して、基線と第 2 線の幅が若干広めに留めている 5 種類は中学校への学びの継続という観点から各出版社が中学校英語教科書で使用している 4 線の幅をモデルとして小学校英語教科書の 4 線の幅を設定していることがわかる。

CR	HR	SS	TO	OW	HW	BS
3	2	4	5	4	5	5
4	3	5	6	5	9	6
3	2	4	5	4	5	5

図 2　小学校英語教科書における 4 線幅の比率（5）
（出典）筆者作成

2. 書体（フォント）

英語教科書には、表紙、レッスン名、本文、アクティビティ、練習問題、情報や知識のコーナー、イラストなどに、様々な種類の書体（フォント）で英語の文字が使われているが、「書くこと」の言語活動に際してアルファベットの文字指導における書き方のモデルとなる書体は教科書出版社ごとに統一されている。そこで、アルファベットの書き方のモデルとなる書体を調べたところ、令和 2 年度まで中学生が使用してきた中学校英語教科書と、令和 2 年度から小学生が使用している小学校英語教科書では、アルファベットのモデルとなる書体が全く異なっていることが以下のように明らかとなった。

令和 2 年度まで中学校で使用されてきた中学校英語教科書（中学 1 年生用）の全 6 種類のうち、『New Horizon English Course 1』（東京書籍）、『Sunshine English Course 1』（開隆堂）、『Total English 1』（学校図書）、『One World English Course 1』（教育出版）、『Columbus English Course 1』（光村図書）の 5 種類が Ball & Stick 書体であり、オリジナルの手書き書体は『New Crown English Course 1』（三省堂）のみであった（図 3）。

CR	HR	SS	TO	OW	CO

図 3　中学校英語教科書の書体

（出典）筆者作成

これに対して、図 4 に示されているように、令和 2 年度から小学校で使用されている英語教科書（小学 5 年生用）においては、『Crown Jr. 5』（三省堂）、『New Horizon Elementary English Course 5』（東京書籍）、『Junior Sunshine 5』（開隆堂）、『Junior Total English 1』（学校図書）、『One World Smiles 5』（教育出版）、『Here We Go! 5』（光村図書）、『Blue Sky Elementary 5』（新興出版社啓林館）の 7 種類すべてにおいて、出版社ごとに独自に開発されたオリジナルの手書き書体が使用されていることがわかる。

CR	HR	SS	TO	OW	HW	BS

図 4　小学校英語教科書の書体

（出典）筆者作成

さらに、アルファベットの書き方におけるモデルの書体の違いを明確に示すため、アルファベットの小文字 a から z までの中学校英語教科書の Ball & Stick 書体と小学校英語教科書のオリジナルの手書き書体の双方の代表例を示したのが図 5 である。

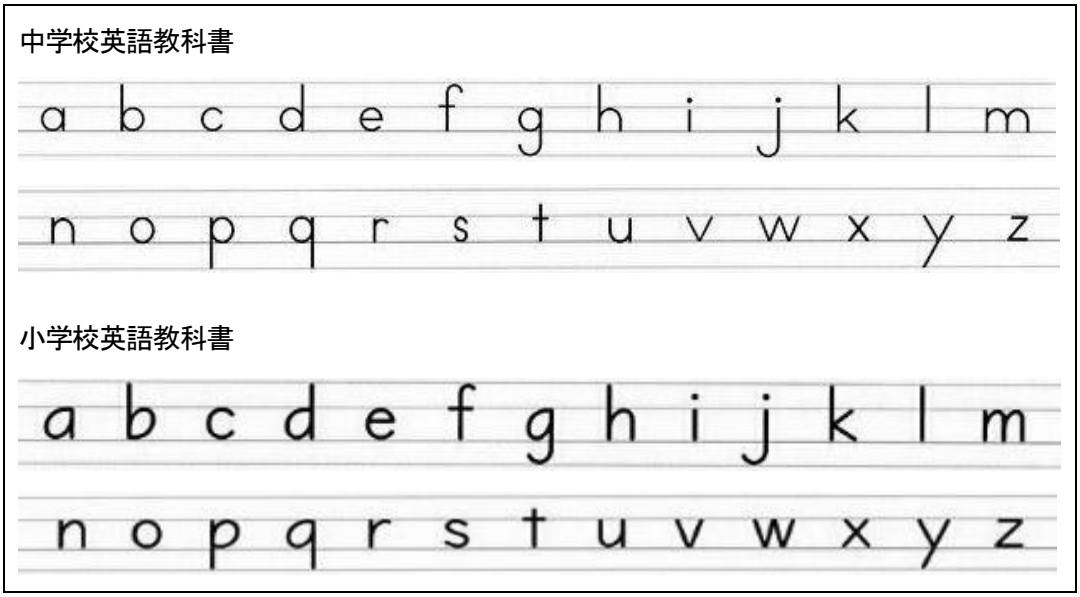

図 5　アルファベット小文字の書体
（出典）筆者作成

中学校英語教科書のアルファベット小文字の書き方のモデルとなっている Ball & Stick 書体の特徴としては、書体名の通り、丸（ball）と棒（stick）で形成されている文字である。例えば、a、 b、 d、 p、 q は、「正円」または「真円」とも呼ばれる「ゆがみのない完全な円」に左か右に横棒を付け足す文字となっており、書き出し部分と書き終わりの部分が（角ゴシック書体のように）両端が直角である。それに対して、小学校英語教科書のアルファベット小文字の書き方のモデルとなっているオリジナルの手書き書体の特徴としては、上記と同じ a、 b、 d、 p、 q の文字が、「正円（真円）」ではなく少し右に傾いた縦の方向に細長い「楕円」となっており、書き出し部分と書き終わりの部分は（丸ゴシック書体のように）丸みを帯びている。また、k の画数については、中学校英語教科書では 3 画であるのに対して小学校英語教科書では運筆の自然な流れから 2 画としている。

なお、アルファベットの小文字ほどの違いはないが、アルファベットの大文字についても、O、 Q は中学校英語教科書の Ball & Stick 書体では、「正円（真円）」となっており、書き出し部分と書き終わりの部分の両端が直角であるのに対して、小学校英語教科書のオリジナルの手書き書体では縦長の「楕円」となっており、書き出し部分と書き終わりの部

分は丸みを帯びている。さらに、大文字では K の他にも R の画数が中学校英語教科書の 3 画に対して小学校英語教科書では運筆から 2 画となっており、G の形状も異なる（図 6）。

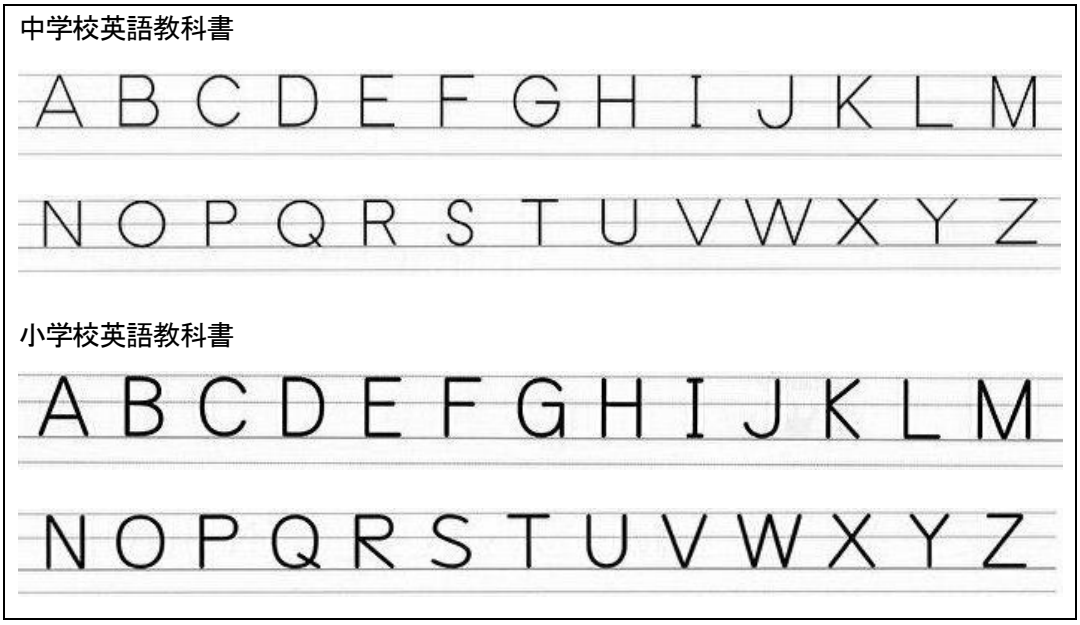

図 6　アルファベット（大文字）の書体
（出典）筆者作成

このように、小学校英語教科書にオリジナルの手書き書体が採用されている要因は新学習指導要領の全面実施に向け移行期間で使用されてきた文部科学省が作成した教材（発行は東京書籍）の『Let's Try!』や『We Can!』でオリジナルの手書き書体が使われていることにある。これらの文部科学省作成教材で使われている手書き書体は、Sassoon（2003）が学校用のモデルとして推奨している 4 種類の手書き書体である、正円正体（Round and upright）正円斜体（Round and slanting）、楕円正体（Oval and upright）、楕円斜体（Oval and slanting）のうち、楕円正体（Oval and upright）を参考にして大文字を、楕円斜体（Oval and slanting）を参考にして小文字を作成したもので、運筆の自然な流れの重要性及びできる限りひと筆書きで書くことを基本としている。図 4 で示したように、各教科書出版社のオリジナルの手書き書体は『Let's Try!』や『We Can!』の手書き書体や Sassoon（2003）の手書き書体を参考にしつつも、各社が書体制作会社と特別支援教育の専門家の協力を得てオリジナルの手書き書体を独自に研究・開発したものである。なお、各教科書出版社が開発したオリジナルの手書き書体の名称は、特別支援教育への配慮に基づいてユニバーサルデザインを取り入れていることから、UD 書体（UD フォント、ユニバーサルデザインフォント）とも呼ばれる。

3. 言語活動

アルファベットの活字体の大文字と小文字に関する「書くこと」の言語活動については、令和２年度まで中学１年生で行われてきた中学校英語教科書と令和２年度から小学生５年生で行われている小学校英語教科書では配列と頻度が大きく異なる。これまで長年に渡って中学校で行われてきたアルファベットの文字指導における「書くこと」の言語活動は、中学１年生の１学期に集約して行われるものであり中学校英語教科書においても最初の方の課にまとめて収録されている。これに対して、図７および図８にあるように、小学校英語教科書のアルファベットの文字指導における「書くこと」の言語活動は、最初の方の課だけでなく教科書全体を通して課間のコーナーなどに繰り返して登場する。具体的には、『Crown Jr. 5』（三省堂）には「Write and Talk」、『New Horizon Elementary English Course 5』（東京書籍）には「Sounds and Letters」、『Junior Sunshine 5』（開隆堂）には「文字に慣れよう」、『Junior Total English 1』（学校図書）には「Alphabet Corner」、『One World Smiles 5』（教育出版）には「Review」、『Here We Go! 5』（光村図書）には「Fun Time」、『Blue Sky Elementary 5』（新興出版社啓林館）には「Let's Read and Write」というコーナーがある。この配列は小学校６年生用の教科書でも同様で小学校では２年間を通して繰り返してアルファベットの書写を行う「書くこと」の言語活動が置かれている。

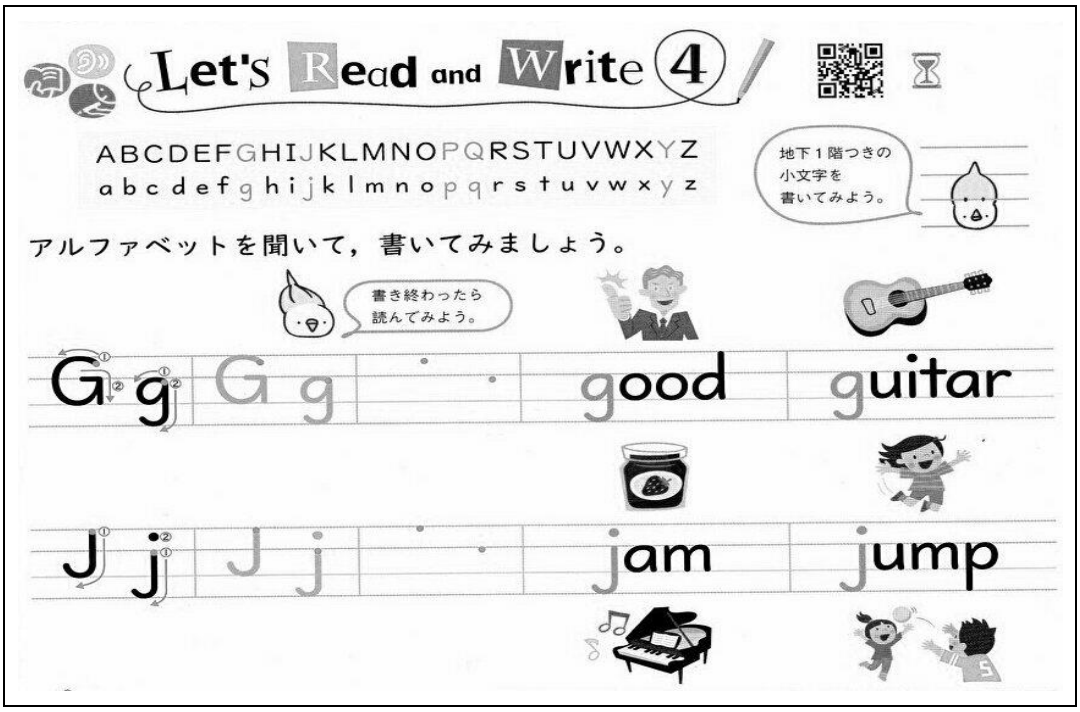

図７　言語活動の例①

（出典）『Blue Sky Elementary 5』p.54

Fun Time 6

文字遊び

「暗号ゲーム」をしましょう。先生が言う数字を（　　）に入れ，アルファベットに置きかえ，暗号を解読しましょう。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z

（　）（　）（　）

（　）（　）（　）（　）（　）

図 8　言語活動の例②

（出典）『Here We Go! 5』p.114

Ⅳ　考察とまとめ

令和 2 年度から使用されている小学校英語教科書（小学 5 年生用）と令和 2 年度まで使用されてきた中学校英語教科書（中学 1 年生用）との分析結果の考察を行う。4 線幅については、中学校英語教科書（全 6 種類）では等幅が 3 種類、ほぼ等幅が 3 種類に対して小学校英語教科書（全 7 種類）では幅がかなり広いが 2 種類、ほぼ等幅が 5 種類であった。換言すれば、中学校英語教科書が等幅かほぼ等幅であるのに対して、小学校英語教科書は幅がかなり広いとほぼ等幅とに二分されていることがわかる。これは、前者が文部科学省作成教材の 4 線幅に合わせてボトムアップ式に小学校中学年の「外国語活動」との連携を重視しているのに対して、後者はそれぞれ自社が作成している中学校英語教科書で使われている 4 線幅に合わせてトップダウン式に中学校英語との連携を重視しており、各教科書出版社における編集方針の趣意が表れていると言える。

書体（フォント）については、中学校英語教科書（全 6 種類）のうち 5 種類で Ball & Stick 書体が 1 種類でオリジナルの手書き書体が使用されているのに対して、小学校英語教科書（全 7 種類）のすべてにおいて独自に開発したオリジナルの手書き書体が使用されている[(6)]。すなわち、中学校英語教科書はほぼすべてに Ball & Stick 書体が使用されて

いるのに対して、小学校英語教科書はそれぞれ独自に開発したオリジナルの手書き書体が使用されている。Ball & Stick 書体は長年に渡って中学校英語教科書のアルファベットの文字指導「書くこと」のモデルとなった書体ではあるが、筆者の経験からしても Ball & Stick 書体の「正円」の部分を中学校 1 年生が書くことは難しく書けずに苦労していた生徒たちの様子が思い出される。ゆがみのない完全な円と横棒を書く Ball & Stick 書体は運筆の流れから考えても不自然である。また、b と d、p と q を左右に、b と p、d と q を上下に反転させると同一の字形となることからそれぞれ「鏡文字」「逆さ文字」とも呼ばれるが、Ball & Stick 書体では「正円正体」が使われており全く同一の字形となるので混乱や誤りが生じやすい。例えば、犬（dog）を bog、机（desk）を busk と書いてしまう間違いが繰り返される。新しい小学校英語教科書で使用されているオリジナルの手書き書体は「楕円斜体」を使用しており、反転させても同一の字形にならないので明確に異なる字形であると児童が認識しやすい。この書体は特別支援教育への配慮に基づいてユニバーサルデザインを取り入れている UD 書体であり今後は中学校英語教科書にも広がるであろう。

言語活動については配置と頻度が異なり、中学校英語教科書ではアルファベットの文字指導の言語活動が最初の方の課にまとめているのに対して、小学校英語教科書では教科書全体を通して課間のコーナーで繰り返されている。中学校ではアルファベットの文字指導は中学 1 年生の早い時期に集中的に指導しており、文字指導を補完するための帯活動として 1 学期を通して 3×3 の 9 マス（あるいは 4×4 の 16 マス）に 4 線を入れたビンゴカードを作成してアルファベットビンゴゲームを取り入れることが多いがドリル的な言語活動に陥ることがある。一方、小学校英語教科書では年間を通して各課の課間のコーナーに 4 技能 5 領域の言語活動をバランス良く配置していることに加えて、児童の発達段階に応じて楽しみながら学べるゲームやクイズによる様々な言語活動で螺旋的に積み上げて繰り返して文字に触れることで「書くこと」に慣れ親しみながらアルファベットの大文字と小文字を習得することができるように何度も反復しながらスモールステップで段階的に文字指導が行われる教科書の構成もこれまでの中学校英語教科書にはない特徴となっている。

最後にこれからの文字指導のあり方を述べる。これまでアルファベットの文字指導は手書きで行うことを基本としてきたが、実際の日常生活においてはパソコンやタブレット、そしてスマートフォンなどの端末で文字を入力して書く機会が増えている。また、新小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の施行によりプログラミング教育が必修化されてカリキュラム･マネジメントの下で学年を問わずに教科横断的な指導を行うことになっている。そこで、プログラミング教育の一環として「外国語（英語）」の文字指導をパソコンのキーボードのキーに書かれているアルファベットを入力して「書くこと」も新しい文字指導となり得るであろう。ただし、パソコン入力で文字指導を行う場合であっても、手書きの場合と同様にして、児童が英語を書きたくなる必然性のある場面を設定して、目的と意味のある言語活動を通して学ぶことが極めて重要であることには十分に留意する必要がある。

注

(1) 小学校国語科では小学 3 年生で日本語の音韻構造の理解を深めるために訓令式を基本とするローマ字指導が行われている。これまでアルファベットの文字指導が行われてきた中学校 1 年生が地名や氏名などの綴りを書く際に訓令式とヘボン式を混同してしまう生徒が少なくなかったように、今後は小学校 5 年生の児童に同様の事態が生じることは想像に難くないことから指導の工夫が必要である。例えば、地名の「藤沢」（ヘボン式は Fujisawa）は訓令式では Huzisawa となり、名前の「洋子」（ヘボン式は Yoko）は訓令式では Yo^ko となり長音（^）のマークが付くなど表記に違いがある。

(2) 手島（2019）は、第 1 線のことを最高線、第 2 線のことを中間線、第 3 線のことを基本線、第 4 線のことを最低線と名付けている。なお、小学校英語教科書の基線の配色は（中学校英語教科書の赤色や黒色に対して）カラーユニバーサルデザイン（CUD）の観点から水色（淡青色）を採用している。

(3) コクヨは小学校高学年への英語科の導入に伴い、2020（令和 2）年 1 月に 4 線幅の比率を 2:3:2 とする「キャンパスノート（用途別）まん中が広い英習罫」を新たに発売している。

(4) 表の記号は、CR が『New Crown English Course 1』（三省堂）、 HR が『New Horizon English Course 1』（東京書籍）、 SS が『Sunshine English Course 1』（開隆堂）、 TO が『Total English 1』（学校図書）、 OW が『One World English Course 1』（教育出版）、 CO が『Columbus English Course 1』（光村図書）を示している。（以下同様とする。）

(5) 表の記号は、CR が『Crown Jr. 5』（三省堂）、 HR が『New Horizon Elementary English Course 5』（東京書籍）、 SS が『Junior Sunshine 5』（開隆堂）、 TO が『Junior Total English 1』（学校図書）、 OW が『One World Smiles 5』（教育出版）、 HW が『Here We Go! 5』（光村図書）、 BS が『Blue Sky Elementary 5』（新興出版社啓林館）を示している。（以下同様とする。）なお、文部科学省がまとめた「令和 3 年度使用教科書の需要数集計結果」による教科書の占有率は、CR が 4.8%、HR が 57.6%、 SS が 9.1%、TO が 1.9%、OW が 8.2%、HW が 15.1%、BS が 3.3%となっている。

(6)『New Crown English Course 1』（三省堂）も以前は Ball & Stick 書体だったので中学校英語教科書では伝統的に Ball & Stick 書体を使用してきたと言えよう。

参考文献

アレン玉井光江（2019）『小学校英語の文字指導』東京書籍

樋口忠彦・加賀田哲也ほか（2017）『小学校英語教育法入門』研究社

樋口忠彦・泉惠美子ほか（2019）『小学校内容論入門』研究社

文部科学省（2017）『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』文部科学省

文部科学省中央教育審議会（2016）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」文部科学省

Sassoon, Rosemary（2003）*Handwriting the way to teach it 2nd ed.* Paul Chapman Publishing

小学校英語教育学会（2020）『小学校英語教育ハンドブック』東京書籍

手島良（2019）『これからの英語の文字指導』研究社